



R4 標準学力検査の結果と学力向上への取組

1 教科・各学年偏差値平均 令和4年4月11日、12日実施

※「偏差値平均」とは全国平均を50としたときの当校の数値です。（ ）は同一生徒で前学年時の数値です。

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
1年	54.3	51.2	53.9	51.5	55.7
2年	55.6 (56.2)	53.5 (53.4)	56.8 (55.2)	55.2 (52.5)	57.6 (57.5)
3年	55.9 (55.3)	54.7 (55.7)	56.4 (56.9)	56.2 (58.3)	57.9 (59.8)

2 各教科の結果からみえてくる「本校生徒の実態」と「改善に向けた具体的な取組」

	本校生徒の実態	具体的な取組
国語	<p>全学年、全領域で全国平均を上回っています。</p> <p>1年生について見ると、工夫して話し、感想や考えを持つ力が高い様子が見られます。その反面、基本的な語句につまずきがある様子が見られます。</p> <p>2年生では、文法や古典などの知識の習熟度が高い様子が見られます。</p> <p>3年生は、情報を選びながら構成を考える力、また、それを伝える力が高い様子が見られます。基本的な漢字の読み書きの力も高いです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多読をすすめることにより、語彙を豊かにする。また、文字情報を得ることにより、「深い読み」につなげる。 古典作品などの学習では、興味関心を高めるために、さまざまな背景的な事柄も学習に取り入れていく。 「単元別漢字」を中心としたチャイム学習※を継続する。 ICTを活用し、視覚や聴覚から有益な学習情報を取り入れることにより、興味や「読み」を深めさせる。
社会	<p>すべての学年で地理的分野・歴史的分野の基礎・基本的な学習内容の定着率は比較的高く、全体として全国平均を上回っていますが、次の課題が見られます。</p> <p>1年生では、「都道府県の名称と位置」、「貴族の世の中」、「明治から昭和時代の出来事と人物」が他の領域に比べると、全国平均を下回っています。</p> <p>2年生では、地理的分野の「南北アメリカ州」が、全国平均を下回っています。</p> <p>3年生では、地理的分野の「産業などの面から見た日本の姿」が、全国平均を下回っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した映像等の資料提示の工夫により学習意欲を高め、学習内容の理解を深める。 時事問題の活用や、既習知識と社会的事象とのズレを生じさせる資料提示、発問等を通して、問題解決的学習に取り組む。 ペアやグループ学習などの小集団学習の活用により、思考力・表現力の向上を目指す。 日常や長期休業中の課題を工夫（特に冬・春休み中に年度初めに学習したところを復習）し、学習内容が継続して定着するようにする。

数学	<p>すべての学年、学習領域において、全国平均を上回っています。どの学年も関数の領域が優れています。特に1年生は百分率、速さ、2年生は比例と反比例、平面図形、3年生は一次関数の学習内容が身に付いています。</p> <p>また、観点別でも全学年とも全観点の数値が全国平均より上回っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •チャイム学習※を活用し、入試問題を含んだ計算問題に取り組み、計算力の向上と基礎・基本の定着を図る。 •どの学年も、数と式の領域が他よりやや低めであることから、正負の計算や方程式や文字式の利用などに力を入れていく。 •学び合い活動を意図的に取り入れた課題解決的学習を通して、多様な数学的な見方・考え方を身に付けるとともに思考力、判断力、表現力の向上を目指す。
理科	<p>すべての学年において、全国平均を上回っています。</p> <p>1年生はおよそ半数の領域で全国平均を上回っていますが、中領域の「振り子の運動」「水溶液の性質」、「月と太陽」において全国平均を大きく下回っています。</p> <p>2年生・3年生はどの領域も全国平均を大きく上回っています。観点別の科学的な思考や表現の数値が高く、応用力が付いてきていると考えられます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •気づき、課題、仮説を大事にし、目的意識をもった観察・実験を通して、主体的な学習活動の継続を図る。 •身のまわりの自然現象と結びつけた授業展開により学習意欲を高める。 •積極的に話し合い活動を取り入れ、観察・実験の予想や結果について他の意見から自分の考えを練り上げる力を育む。 •ICTを活用して学習意欲を高めるとともに、映像等を用いて分かりやすく学習内容の定着を図る。
英語	<p>すべての学年、学習領域において全国平均を上回っています。</p> <p>1年生では「英文を絵や情報と結びつけること」、2年生では「適切な表現を用いて書くこと」が全国平均を大きく上回りました。教科書のモデル文に類似した練習の繰り返しや、タブレット端末を用いた生徒間での表現活動の継続した取組の成果だと考えられます。</p> <p>3年生では「長文の概要や要点を読み取ること」が全国平均を大きく上回りました。これは、長文読解に必要とされる語彙や文法事項が身に付いており、長文に対して粘り強く取り組む姿勢の表れだと考えられます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •各定期テスト前に行う英単語テストを継続して実施する。 •自分の思いや考えを発表する場面を大切にす。ALT（外国人講師）の協力を得ながら、パフォーマンステストやスピーチ発表などを行う。 •教科書等でモデルの型を分析し、類似した課題に繰り返し取り組むサイクルを継続する。 •ICTを活用した表現活動を取り入れ、生徒間での発表を通し、よりよい英文を作ろうとする意欲を育む。 •デジタル教科書を活用し、家庭学習として英単語や本文の音読練習に取り組みさせる。

※チャイム学習とは、休み時間中に学習系の生徒が課題を配布し、始業のチャイムと同時に課題に取り組む学習活動のことです。